

継続に向け、気持ちを新たに



早いもので本機構の年間報告書も3冊目となりました。機構を作る前の慌ただしさもつい先日のような気がしておりますが、本年度の報告書を読み返しますと、本機構が歩を進めて新しい領域へと着実に進んでいるのがわかりたいへん嬉しく思います。

私がライフワークの1つとしております「文化財赤十字」活動の面でいえば、2007年度は「日中韓文化フォーラム」の開催に助成いただき、同じ文化の源流に並ぶ三国の相互理解を一層強く、深いものにすることができました。その他、さまざまな文化財保護に助成いただいております。この場をお借りして全日本社会貢献団体機構と全日本遊技事業協同組合連合会の皆さまのご理解に感謝いたします。

昨年は、命を大切にする研究・事業への助成にも力を入れました。ご承知のように今の日本は深刻な医師不足にさらされております。救急車のたらい回しが日常的に行われるようになり、命を守るための基本的なインフラが崩れようとしています。さらには温暖化や災害への対応などまだまだ手を尽くさなくてはならない分野が多数あります。しかし、幸いにこうした問題に真摯に取り組んでいらっしゃる皆さんがいることも、助成事業を通じて知ることができたことは本当に救われる思いがしました。今後もこの分野には注目していきたいと考えております。

そして子どもの健全育成への支援についても、昨年度より大幅に助成を増やしました。私の幼い頃は戦争時代ですから、子どもにとって確かに辛い時代でありました。しかし、周囲には大人たちがいて助け合いながら生きているのを見ております。今の子どもたちはというと、その救いの手が余りに少ないのではないかというのが偽らざる気持ちです。大人たちの無関心が子どもたちを孤独に不安にしています。そうした社会状況が、不登校や引きこもりなどと無縁だとは到底思えません。豊かな社会を育むためには子どもの教育にこそもっとも大きな労力と資金を使うべきだと考えております。

これらの助成事業については本報告書に詳しく書かれておりますので、ご一読いただければ幸いです。

そして全国から皆様が行っている社会貢献活動の資料が集まってきました。地味ながらも地域に密着したさまざまな活動が毎日のように行われていることがよくわかります。皆さまの不断の努力と温かな志に深く敬意を表します。

皆さまに負けずこれからもより充実した報告書をお届けできるよう、気持ちも新たに組みんで参りたいと思います。

全日本社会貢献団体機構 名誉会長

平山 勲夫

誰もが善意を発揮できる社会をめざして



このたび当機構の会長を務めることとなりました塩川正十郎でございます。

これまで顧問として当機構とおつきあいさせていただいておりましたが、この年間報告書を拝見して改めてその重責に襟を正す思いでおります。

今の日本は深刻な格差社会になってしまいました。そこから生まれてくる弊害が蔓延しているといえます。子どものいじめしかり、年金問題しかりです。もちろん政治がもっときちんと対応しなくてはならないわけですが、昨今の動きを見るに日本の政治が急激にこの弊害に対応しようとは思えません。であれば、私たち自身がまず動き始めなくてはならないでしょう。

幸いにして、10年も20年も前からさまざまな分野で文化を、子どもたちを、そして命を守るために身を粉にして尽力されている皆さま方と知り合うことができました。

それを少しでもサポートできるとしたら、これほど幸いなことはございません。

また一方で社会貢献が特別な出来事や活動になってはならないと思います。ごく当たり前のように国民一人ひとりが善意を発揮できる社会を作ることが、誰にとっても幸せな国づくりなのです。日本には1億2千万人の国民がおります。そのうちマスコミを騒がせているような困った方々はごくわずかです。当機構の活動を通じて、その他の多くの人々の心に訴えかけて、新しい日本を創造するお手伝いができるよう、せいっぱい努力していく決心でおります。

全日本社会貢献団体機構 会長

塩川正十郎

社会貢献とともに大衆娯楽への道を歩む



日頃より全日本社会貢献団体機構の事業に、ご協力・ご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

この度当機構の母体である全日遊連の理事長に就任するに際し、決意したことが3つございます。1つはファン獲得のための施策の推進、2つめが全日遊連の組織と業務の的確な運営、3つめが都府県方面遊協の事務局と全日遊連事務局のネットワーク強化です。

そうした中であって、全日本社会貢献団体機構が続けている活動はたいへん重要な意味を持っております。今、世の中ではCSR活動といって企業の社会貢献が盛んになっておりますが、私たちは半世紀以上も前から、こうした活動に取り組んでまいりました。社会貢献の精神は長年培ってきたものであり、その結果が当機構の設立と全国を結んだ総体としての活動へと進化してきたものと確信します。

この年間報告書をご覧ください。今日もどこかで仲間たちが、地道な活動を続けていることがわかります。そして私たちの志はさまざまな形で、多くの国民に伝わっています。

業界を取り巻く環境は厳しさを増すばかりですが、業界のすべての力を結集しなければなりません。この年間報告書は私たちの志と活動を広く多くの人々に知っていただくための象徴であると考えております。そして、これらの活動の継続が大衆娯楽への道でもあり、業界を支える若い世代の育成にもつながると信じています。

今後もよりいっそうの努力をし、社会が真に求める貢献活動を続けていきたいと存じますので、いっそうのご支援・ご協力をお願いいたします。

全日本社会貢献団体機構 理事長

原田 實